

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	インテリア設計実習1
<b>科目基礎情報</b>				
開設学科	建築学科	コース名		開設期 前期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数 60時間
単位数	2単位	授業形態	実習	
教科書/教材	初学者の建築講座 建築製図 第3版 市谷出版社			
<b>担当教員情報</b>				
担当教員	丸山尚子、岸井智子	実務経験の有無・職種	有・建築設計	
<b>学習目的</b>				
<p>計画する区画の構造や各寸法を正確に捉え図面として情報をまとめ、その上で室内の仕上げや空間構成を創造し、効果的なプレゼンテーションをするための知識を習得することを学習目的とする。インテリア設計実習1では、各設計図の解読、計画する区画の実測調査、構造の把握、各仕上げ材の選定、各動線の計画等、多角的に情報を集め整理し、実現可能なプランを完成させる。また家具の三面図を解読し、家具の部材構成等の理解を深め、自身のアイデアを図面等によって表現する。最終的にはそれらを適切にまとめ、ポートフォリオに入れる作品や効果的なプレゼンテーションができることを学習目的とする。</p>				
<b>到達目標</b>				
<p>次の4点を到達目標とする。</p> <p>①家具の三面図について理解し、整合性の取れた図面の作成ができる。</p> <p>②室内の実測方法を理解し、実際に測量したデータをもとに図面化することができる。</p> <p>③現況の構造等を理解した上で室内空間をデザインすることができる。</p> <p>④様々な状況を想定した上で適切、かつ、コンセプトに沿った素材を選び表現することができる。</p>				
<b>教育方法等</b>				
授業概要	講義と実習を中心に授業を進め、理解度を深める。コンセプトに合った家具や素材、並びに用途、形態によって必要となる室や動線計画を考え検討し、理解を深める。中間提出や発表会での教員による評価をもとに、理解の到達度を確認する。			
注意点	配布プリント、電卓、三角スケール、製図道具、トレーシングペーパー、色鉛筆、スケッチブックを毎回持参し、板書はスケッチブックに記録すること。メジャー(コンベックス)を持参することが望ましい。授業時数の4分の3以上出席しない者は単位を認定しない。授業は段階的に進むため毎回出席し、授業内に作業を完了させること。日本工学院 授業心得(学生用)を守ること。			
評価方法	種別	割合	備 考	
	レポート	30%	7、10回目提出物の内容、進捗状況で評価する。	
	成果発表 (口頭・実技)	60%	15回目に行う発表の内容を総合的に評価する。	
	平常点	10%	授業態度によって評価する。	
<b>授業計画(1回～15回)</b>				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	ガイダンス	家具三面図の作成手順を理解できる。		
2回	インテリア設計概要	平面図、展開図、天井伏図等の図面の読み取り方が理解できる。		
3回	既存建築物の現地調査	室内各部の実測の仕方が理解できる。		
4回	図面作成①	実測データをもとに既存図面の作成の仕方が理解できる。		
5回	図面作成②	改修案を考え、コンセプトがまとめられる。		
6回	図面作成④	改修案の図面の作成方法が理解できる。		
7回	図面作成⑤・改修案中間提出	担当教員に自身の案の説明ができる。		
8回	プレゼンシート作成①	図面間での不整合箇所を見つけ、修正することができる。		
9回	プレゼンシート作成②	所定の用紙サイズを確認し、おおよそのレイアウト案が作成できる。		
10回	プレゼンシート作成③・改修案提出	美しく見やすい図面配置、文字の配置ができる。		
11回	マテリアルの選定①	各部材ごと、用途に適した色を選ぶことができる。		
12回	マテリアルの選定②	平面図、展開図、天井伏図に着色することができる。		
13回	マテリアルシートの作成①	マテリアルシートに色、素材を効果的にまとめることができる。		
14回	マテリアルシートの作成②・提出	必要事項を全て記入し、バランスよくシートレイアウトができる。		
15回	発表会、総まとめ	口頭説明とプレゼンシートを有効に使い、プランの魅力を伝えることができる。		